

# TEIKA

Teikyo University of Science

## NEWS LETTER

ニュースレター 2016 VOL. 29



帝京科学大学

## 新学科始動!

- 医療福祉学科
- 幼児保育学科
- 学校教育学科

## 地域交流

- こども学科スポーツ大会
- 表現発表会
- 大学祭紹介

## 教員の活動報告

クラブ・サークル  
活躍する卒業生

MAIL from UNIVERSITY





医療科学部

## ●医療福祉学科

「力強く、やさしく、愛される」、福祉の専門職を目指し、地域交流などを展開。



プに分かれてカレーを作り、地域の方々に審査していただく「カレー甲子園」を実施しました。グループワークの学びと、地域交流を目的としており、いろいろなお話を聞くことができる機会となりました。

人との交流、仲間作り、試行

社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士の国家試験受験資格の取得をめざす第1期生たちの大学生活は、期待と不安を胸に始まりました。先輩がいない中、オープンキャンパスや桜科祭も1年生だけで進め、8月には初めての介護実習に。12月には、7グルー

錯誤を重ねて新しいものを創造することは、1期生の宿命ですが、福祉専門職に求められる重要な要素の一つ。目を輝かせ生き生きと活動している学生たちの姿は、「力強く、やさしく、愛される」人に成長できることを確信させてくれます。

こども学部

## ●学校教育学科

「夢の体験教室」や学生サークルなどを通じて、将来の教育界を担う人材を育成しています。



育は実践を通して本物になる」を合言葉に学生たちは実際の教育活動の難しさを体験。また、400名を超えるこどもたちが参加する一大イベントでは、準備から後片付けまで、責任を持ってやり遂げました。その後、学科公認の学生サー

本学科では、多面的に教育現場を支え、教育および教育支援に携わることのできる人材の育成を目指しています。

入学直後のフレッシュマンキャンプは、仲間作りのきっかけとなりました。足立区との連携事業「夢の体験教室」では、「教

クル「SAT ; Student Assistant Teacher (学生教育研修生)」が立ち上がり、学校インターンシップや地域貢献活動に積極的に関わっています。こうした自主的活動の展開は、将来教育界で活躍する人材が今ここで育っていることの証しといえます。

# 新学科始動!

2016年度に、医療科学部には医療福祉学科、こども学部には幼児保育学科、学校教育学科が誕生しました。いずれも将来の目標に直結したもので、多岐にわたる選択が可能となっています。すでにさまざまな活動が展開されており、学生一人ひとりが未来へ始動しています。

こども学部

## ●幼児保育学科

チェンジ&チャレンジの精神を忘れずに、こどもの思いに寄り添う心優しい保育者へ。



こども図書館や科学博物館の見学など、新しい仲間作りの時を過ごしました。後期には、地域のこどもたちと保護者の方々に大学に招く「のびのびレイデイ」を実施するため学生たちは張り切って準備をしています。さらに足立区の児童

館「ギャラクシティ」での学生による出前授業も実施予定です。小さなこどもが大好きな学生たち。こどもたちと触れあうことを楽しみに一生懸命準備を進めている姿からは、こどもの思いに寄り添う素敵な保育者に育った将来像が想像できます。

前期には助言教員制度を活用した基礎ゼミでの交流会や、





# 地域交流 Regional Exchange

## こども学科スポーツ大会

昨年度からこども学科では、学生有志によって『こども学科スポーツ大会』が開催されています。特徴は学生が有志で委員会を設立し、学生が主体となって企画・運営・実践を行うものです。幼稚園教諭・保育士の養成校である本学科の学生は、将来必ずスポーツ大会（園の運動会等）の運営に携わることになります。「みんなが楽しめるスポーツ大会」のスローガンのもと、試行錯誤しながら運動の場の提供に尽力しております。

これまでに、2015年9月「第1回球技大会」、2015年12月「第1回運動会」、2016年5月「第2回運動会」と計3回行っており、今後年間2回のスポーツ大会を予定し、企画・運営しています。

こどもの運動不足はまず大人から!!

こども学部こども学科 助教 ●望月 崇博



## 第1回表現発表会

こども学部こども学科は、2016年7月17日(日)に上野原市立もみじホールで『第1回 帝京科学大学こども学部こども学科 表現発表会』を開催しました。

『表現発表会』の目的は、保育現場の行事である「こどもによる発表会」に対応できる学生、幼稚園教諭・保育士の育成です。『表現発表会』に向けて、こども学科の学生は豊かな感性を追求し、幅広い表現の方法を多く学びました。さらに、『表現発表会』実施のための話し合いを行うなかで、協力する姿勢を養い、幼児の教育者・保育者としての資質を高めていきました。『表現発表会』当日、学生は音楽・造形・身体を通して表現することの楽しさを経験し、達成感と感動にあふれた一日をすごしました。

『表現発表会』のプログラムは、オペレッタ2作品「眠れる森の美女」「長靴を履いた猫」（2年生）、アンサンブル（2年生）、合唱（1年生）、創作ダンス2作品（3年生と4年生有志）、こども学科全員合唱でした。ホール入口と会議室では、造形授業で制作した作品が展示されました。

こども学部こども学科 教授 ●大海 由佳



## 学園祭

科大祭  
UENOHARA

今年の科大祭のテーマは「楽笑」でした。科大祭の場を通して、多くの人が笑顔になり、終わった時に楽しかったと思えるような祭りにしたい!という思いと、楽勝の容易にできるという意味から、全員が一つになり協力すればできないことはないという思いを込めこのテーマにしました!

科大祭実行委員は7月頃から本格的に動き出し、科大祭を視覚から魅了するために装飾を作ったり、模擬店を出店する団体への説明、科大祭当日に行う企画を考えたりします。それぞれが自分たちの役割を果たし、科大祭を盛り上げるために努力しています。

今年も楽しんでもらえるような企画を用意しました。毎年みんなで豪華賞品を狙うビンゴ大会や美声を競うカラオケ大会、今年から新企画のミスコン、ミスターコン。また、おいしい食べ物売っている模擬店では、みなさんの投票により上位3団体の模擬店には賞品が用意されているため、それぞれがテントにテーマに沿った装飾に力を入れました!そして科大祭の最後にいこいの広場で行われる後夜祭では、科大祭を締めくくるにふさわしい企画やイベントを実施しました!!

駐車場ステージ付近だけでなく、いこいの広場でも科大祭を行いました!両会場とも大変盛況でした。お越しくださいましてありがとうございました!

科大祭実行委員会委員長 ●鈴木天也  
(生命環境学部生命科学科3年)



## 桜科祭 SENJU

今年のテーマは『六重桜、開花』。第6回となる桜科祭を桜の花びらに例え、六重桜としました。また、多くの花びらで構成され華やかさのある八重桜と関連付け、より一層きらびやかで思い出に残る桜科祭にする、という希望の意味を込めました。

我々桜科祭実行委員会は、基本的に1年を通して開催日に向けての活動をしています。夏休みに入った8月から、約140人全員での本格的な準備を開始します。準備の内容は実行委員会、11ある部署ごとでそれぞれ異なりますが、全員が桜科祭開催を目指し同じ方向を向くことができるよう意識を高めています。そして、楽しんでいただくための企画や内装の準備はもちろんですが、ご協力頂く企業様への挨拶や、当日の安全を考えるための念入りな打ち合わせ等、一人ひとりが自分の役割をもち、日々取り組んでいます。

テーマにふさわしい、華やかな大学祭が開催できたと思います。また来年も是非、足を運んでみてください。桜科祭実行委員会一同、お待ちしております。

桜科祭実行委員会委員長 ●栗田拓人  
(生命環境学部アニマルサイエンス学科3年)





# Teacher's Activity Report

## 教員の活動報告

生命環境学部

医療科学部

こども学部

### 01 アニマルサイエンス学科 より良いアニマルセラピーに向けて

助教 山本 真理子



▲自身で動物の恩恵を感じること、アニマルセラピーの第一歩

▼動物にも対象者にも優しい活動に向けて試行錯誤する学生

はじめまして。アニマルサイエンス学科の山本真理子です。私は人の医療や福祉、教育の場で活躍する動物に焦点を当てて研究や活動を行っています。専門用語では動物介在介入と呼ばれますが、皆さんも「アニマルセラピー」という言葉を聞いたことがあるのではないのでしょうか。アニマルセラピーへのニーズは高く、本学でも学生が主体となり、学内の馬介在活動センターや地域の高齢者施設、小学校などで多くのアニマルセラピー活動が行われています。どのような人にどのような動物をどのように介在させれば、より良い効果が得られるのか。一つひとつの活動が次への学びとなります。また、実践の中で得た体験は、より良いアニマルセラピーに向けた研究の種になります。そのため、日々、学生とともに研究と活動に取り組んでいます。

### 04 理学療法学科 帝京科学大学理学療法学科の卒業生として

特任助教 渡邊 修司



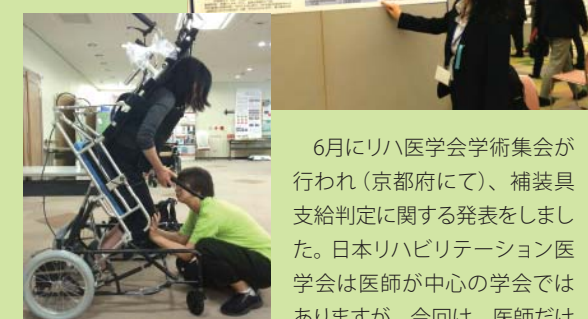
2016年4月より本学に勤務しております。私は本学の医療科学部理学療法学科の1期生として入学し、卒業後は急性期の病院で理学療法士として働き、ヒト足部の筋骨格形の運動学的解析の研究と、理学療法の治療技術の一つとして固有受容性神経筋促通法（以下PNF）という特殊治療手技を学ぶことができました。PNFとは、Proprioceptive Neuromuscular Facilitationの略語で、1950年頃に神経生理学に基づいて研究・開発された治療手技です。以上に加え、帝京科学大学医療科学部理学療法学科の卒業生としての講習会の開催など、本学卒業後のサポートも行っています。

学生時代にご指導いただいた先生方と同じ職場で働くことは大変恐縮ですが、学生時代とは違う緊張感を持って日々を過ごしています。今後は教員としてだけでなく本学の卒業生としての経験も踏まえて学生と関わっていかれたらと思います。

### 05 作業療法学科 多職種の中で広い視野を養う

助教 澤田 有希

- ▶リハ医学会学術集会
- ▼リハ工学カンファレンスで研究開発中の車いすの使用体験

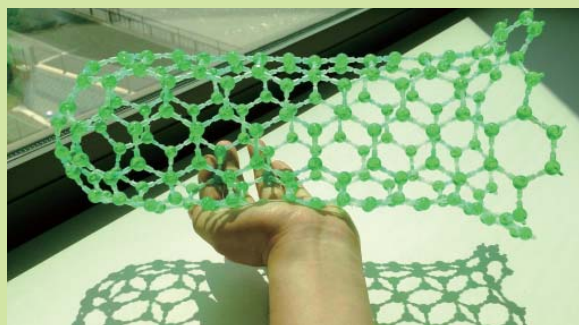


6月にリハ医学会学術集会が行われ（京都府にて）、補装具支給判定に関する発表をしました。日本リハビリテーション医学会は医師が中心の学会ではありますが、今回は、医師だけではなく関連職種も演題発表が行われました。また、8月にリハ工学カンファレンスでバリアフリートイレについて発表しました（高知県にて）。こちらは、福祉機器の企業や大学・リハセンターのエンジニアなどが集まる学会です。

医療職は、多職種が協働する中でその専門性を発揮することが求められます。作業療法士だけでなく、医師やリハエンジニアなどが集う学会に参加することで、広い視点で物事を見ることができ、新たな発見につながります。それは研究の進展にとどまらず、学生への還元につながると考えています。

### 02 自然環境学科 ナノの世界の魅力って何なの!?

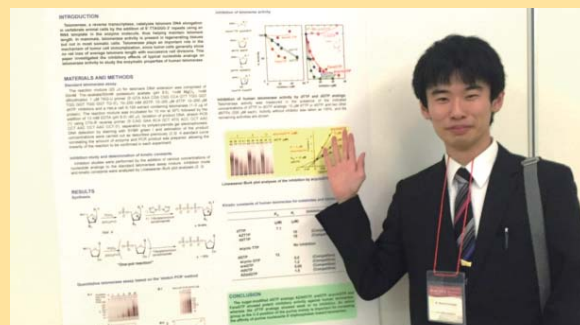
講師 山際 清史



“ナノ”とは10億分の1を意味する言葉で、例えば地球の直径を10億分の1にすると、1円玉のサイズとほぼ同じと言われています。私は、そんな小さなナノメートルの世界の材料研究を専門に行っています。日本発の近未来材料“カーボンナノチューブ”（写真はその模型）の世界一簡単な合成と、燃料電池材料への応用研究です。生活に役立つ様々なナノ材料を、環境に優しい手法で創製することが、研究のモットーです。身近な商品や装置が、実は目には見えないナノテクノロジーによって支えられていることは有名ですが、特にカーボンナノチューブは、学生にナノテクの魅力を伝えるための最適な素材だと思います。自ら合成した材料を使って燃料電池が発電するワクワクの経験を通して、ナノの世界の魅力を直に感じ、学生と共有したいと思っています。

### 03 生命科学科 37年目のDNAポリメラーゼ研究

教授 山口 十四文



1979年、私の卒業研究テーマは「核酸アナログによるDNAポリメラーゼの阻害」でした。細胞内のDNAポリメラーゼを阻害してDNAを作らせなければ引き続く細胞分裂も停止します。制がん剤開発の基礎研究です。それから37年、会社でも本学でもほとんど同じテーマで続けてきました。その間、世間では、DNAポリメラーゼの一種である逆転写酵素をもつAIDSウイルスの出現や、DNA増幅技術（PCR）の開発、ヒトゲノムプロジェクトの完成などの成果がありました。学生の頃、ヒトのDNAポリメラーゼは3種類でしたが今は15種類以上知られています。隔世の感です。現在、DNAポリメラーゼの一種であるテロメラーゼを人工的に阻害するとその細胞に何が起るかを調べています。まだ、続きます。

写真：共同研究者の小林正人氏（平成28年3月バイオサイエンス専攻修士課程修了）

### 06 柔道整復学科 新しい地域連携の試み

講師 佐藤 光浩



柔道整復学科では、公益社団法人山梨県柔道整復師会様との間で、臨床見学実習に関する協定を締結しました。学府と臨床現場が連携し、国民の健康に寄与できる柔道整復師を育てることが目的です。我々柔道整復師は伝統医療の継承者として、柔道整復術という技術・心を後世に伝えて行く義務があります。その義務の遂行のためには多くの学びが必要です。実際に臨床現場で行われているリアルに対する学びが必要なのです。机上での学びだけでは得られないことがあります。人の身体は日々変わり常ではありません。この変化に気づくためには、臨床現場での学びしかありません。今回、学生たちが臨床現場で学べる貴重な機会ができました。この貴重な機会を活かすために、学生と臨床現場での注意事項確認などの打ち合わせを繰り返し行っています。

### 07 医療福祉学科 こころに関心をよせること

講師 三木 良子



私は精神保健福祉士として精神障害がある人の地域生活支援や、精神科救急受診の相談などを行ってきました。また最近では、東京精神保健福祉士協会の活動の一環として、東京都内にある福祉事務所のケースワーカー等に向けて「精神障害の理解と関係性の作り方」というテーマで講義をさせていただきました。2014年の患者調査では、精神疾患のある人は390万人を超え、国民の約30人に一人にまで増加してきています。このように、近年は「こころの問題」がクローズアップされ、そのために正確な情報や知識を持つことが必要となってきています。私は、精神疾患や精神障害のある人の地域生活支援に関する研究を行っていますが、今後も多くの人が「こころの問題」に関心をもち、誰もが暮らしやすい地域づくりに寄与できるよう努力していきたいです。



08

東京理学療法学科

## 末梢神経の構造と運動

講師 齊藤 百合花

筋肉の麻痺に運動はどこまで有効なのでしょう。10月8日～9日に長野県松本市で行われた日本解剖学会中部支部学術集会以末梢神経の機能と構造変化について発表してきました。末梢神経には手足を動かす機能がありますが、神経の構造が変化してしまうとうまく動かせなくなってしまいます。また、顕微鏡で見ないと分からない程度の変化ですと、通常生活には支障が出ないこともあります。“その状態で運動負荷をかけるとどうなるのか？”という疑問に対して、今回の発表では、運動負荷によって運動に支障が出る状態が引き起こされる可能性があることを発表しました。様々なタイプがある神経障害に運動はどこまで有効なのか…、今後はさらに原因や有効性を追及していきたいと考えています。



09

東京柔道整復学科

## 研修活動記

特任助教 浅木 健治



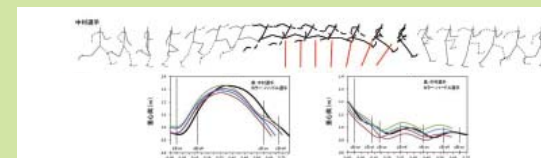
週に1回の研修日には、父が開業している接骨院で研修をしています。通常の診療時間内は父の施術のサポートを行い、それ以外の時間には昼休みの時間を使い、自由診療（保険外診療）を行っております。自由診療時間内は、日常生活やスポーツ活動におけるケガの予防や、スポーツ活動後のコンディショニング調整をメインに行っております。この時間に来院される患者さんの中には、70歳代半ばでテニスをされている方もいらっしゃいます。第一線でほぼ毎日テニスをされており、日々のコンディショニングや体調管理には人一倍気を使われているため、自由診療でのコンディショニング調整をご利用いただいております。このように患者さんが求める施術形態も多様なため、自由診療の幅も広げられるべく、新たな試みを模索しています。

12

学校教育学科

## 科学的態度を持った体育・スポーツの指導

講師 持田 尚



2016年リオデジャネイロオリンピック陸上・十種競技日本代表選手の科学サポート

2016年の4月に保健体育コース教員として着任いたしました。私の専門分野は動きの質的評価と形成の問題を扱う「スポーツ運動学」、「陸上競技方法論」、そして「トレーニング学」です。現在は、それらの研究スキルを応用して、公益財団法人日本オリンピック委員会の強化スタッフとして、東京オリンピックに向けたアスリートの育成・強化の仕事にも携わっています。育成・強化の現場では、曖昧な指導をできるだけ少なくするという点で、スポーツパフォーマンスを科学的に分析し、その客観的データに基づくコーチングの重要性が増しています。知識基盤社会といわれるこの時代、科学的態度をもった体育・スポーツの指導者が求められています。学生の皆さんに探究心を持って考える力を養ってもらえるよう、研究と教育活動に馬力を掛けていきます。

13

こども学科

## 山梨県保育課題等検討委員会について

准教授 大槻 千秋



2016年度山梨県に「保育課題等検討委員会」が発足し、第1回の会合が8月25日に開かれました。この会は、山梨県保育協議会をはじめ県内の保育施設からの代表者の皆様、保育士養成校の先生、県・市町村の子育て支援課の方々で構成されています。県内すべての保育現場と行政と大学・短大の関係者が一堂に会して保育について話し合う会議は、おそらく全国でも数少ないと思います。旗振り役の県子育て支援課が、挨拶を交わす会ではなく実務者会議にしたい、と言われる通り、第1回会議では「保育の質を問直し、県全体の保育を良くしていくための会議にしたい」というお話が出ました。私は長年の保育園長の経験をもとに、帝京科学大学で保育を学ぶ貴重な人材を育て、卒業生に保育施設で未永く働いてもらうためには何が大切かを会の中で考え、また発信していきたいと思っています。

10

看護学科

## 看護学概論の授業にスピリチュアルな側面を取り入れて

教授 志田 久美子

私は、スピリチュアルケアに関する研究をしています。今年度1年生の看護学概論の授業にスピリチュアルな側面を取り入れてみました。



看護の対象は人間であり、心と肉体と魂をもつ存在です。「自分というもの」の存在価値や生きている意味を見出し、心と肉体と魂（スピリチュアル）の調和を図ることにより成長し続ける存在です（ジーン・ワトソン）。授業では、10年間のがんとの闘病生活を送った岸本英夫の手記をもとに、死の恐怖をどのように乗り越えていったのかを紹介し、私のスピリチュアルケアに関する研究も紹介しました。講義終了後の学生の感想としては、スピリチュアルは、人間全体を考える時に無視できないものであり、目には見えないが、生きる意味や目的に関してとても重要な要素であると感じた。スピリチュアルケアは患者さんがその人らしく生きられるように援助することだとわかった。看護で大切なことは、患者さんに寄り添うことではないかと思った等、看護とは何かを深く考えるきっかけになっていました。今後も自分の研究成果を授業に活用していきたいと考えています。

11

幼児保育学科

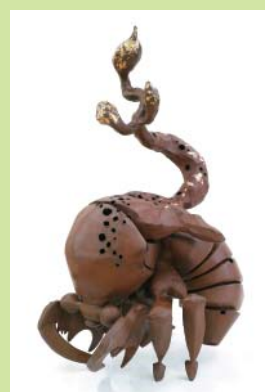
## 日展に入選しました

講師 平野 英史

2016年10月28日から12月4日まで、六本木の国立新美術館で開催された改組第3回の日展（日本美術展覧会）の第4科・工芸美術部門に入選しました。日展は1907年（明治40年）に国が主催する形式から始まり、現在は公益社団法人が主催する日本全国を巡回する大規模な展覧会です。

出品した作品は「追憶」という題名で、セミの幼虫からキノコが生えた「冬虫夏草」をモチーフとしています。この題名にした理由は、これまでの活動を振り返りながら、新たな制作のスタイルを模索していた自分を作品に投影したいと考えたからです。また、モチーフとした「冬虫夏草」は、不老長寿の秘薬としてチベットや中国で食されてきたものです。生きながらにして、知らないうちに、他の生き物へと変化してしまう「冬虫夏草」には、恐ろしくも底知れない力を感じてしまいます。

制作方法は、鉄の板を、叩いたり、溶かしたり、削ったりしながら自分の思う形になるまで造形するようにしました。仕上げは、鉄の表面に錆びをふかすことで柔らかな風合いを出しています。さらに、保護のために蜂の巣から生成した蜜蝋を溶かしてから塗りました。錆び付けには、師匠から受け継いだ特殊な溶液を用いています。



14

教職センター

## アメリカでの経験と子どもの願い事

特任講師 長嶺 宏作



これは、私が十数年前、大学4年生の頃、教育実習を行わせてもらったアメリカ・ボストンにある現地の公立小学校の写真です。日本から来た変わった若者に、福笑いから折り紙まで何でもやらせてもらいました。忘れられない思い出は、子どもたちと「達磨」を折り紙で作し、お腹に願い事を書くという授業をしたところ、ある子どもの願いごとが「お母さん」でした。その子の母親は早くに亡くなり、父子家庭でした。私と担任の先生は凍りつき、すぐ「願い事は、心の中にしまっておきましょう。日本人はシャイですから」といって、もう一枚、折り紙を渡して、達磨のお腹に違う色の折り紙を貼りました。この時、自分の非力さを知り、真剣に教育について考えるようになりました。学生にも、そんな瞬間が大学での学びで、経験できればと考えております。

15

総合教育センター

## 地球内部現象を実験室で再現する

准教授 松影 香子

私は、2016年の4月に物理学、地球科学の教員として本学に着任しました。私の研究対象は惑星です。地球や



太陽系の惑星の過去と未来を、惑星内部を構成する物質の物理的・化学的性質を調べることで解き明かそうとしています。本当は惑星内部に行って直接調べるのがいいのですが、惑星内部はとんでもない高温高压状態にあり、無人探査機でさえ行くことができません。その代り、実験室で惑星内部を再現してそこで物質がどんな性質を持つかを調べます。私は特に水や揮発性成分が惑星進化に与える影響に注目しています。地球は地表に水の海があることで特徴づけられます。地表の水は地球深部へ運ばれ循環し物質の性質を著しく変化させて地表に戻ってきます。その振る舞いは表層環境にも大きな影響を与えます。本学ではまだ実験室の立ち上げ段階ですが、良い研究を今後も続けて教育に還元していきたいと思っています。



## 卓球部

私たち卓球部は、現在関東学生卓球連盟の5部リーグに所属しており、部員それぞれが課題を持ち上位の部へ昇格できるように日々努力しています。

また現在1年生から4年生までの部員で活動していますが、先輩後輩という縛りはきつなく学年関係なく仲良く活動しています。

いつでも部員を募集しています。男女問わず興味がある方は木曜日の17時から21時まで活動していますので見学だけでもいいのではありません。是非遊びに来てください!



## 演劇部

こんにちは、演劇部です!私たち演劇部は、科大祭での舞台公演に向けて日々活動しています。少人数ですが、みんなで楽しく活動中です。

まだまだ人数が少ないので、舞台に立ちたい、舞台製作に関わりたい、などというお方!ぜひ演劇部を覗きに来てください!



# Club & Circle

SENJU

UENOHARA

クラブ・サークル紹介

## 上野原自然探検隊部

私たち上野原自然探検隊部は、上野原市内の小学生20人ほどを対象にして、自然教育活動を行っています。

活動の内容としては、春の八重山に登り、季節の植物や生き物を観察したり、夏の1泊2日の野外キャンプでは、川遊びをしたり、飯ごうを使って自分達でご飯を炊いたりします。この活動を通して、自然に対する興味をより一層持ってもらうことができたり、友だちと協力して何かをやり遂げることの大切さを学ぶことができます。



## AQUASHIP

私たちAQUASHIPは、毎週日曜日に山梨県立富士湧水の里水族館に行ってボランティア活動を行っています。内容としては、展示されている水槽の掃除や魚へのエサやりを主に行っています。多くの生き物と関わり、また時にお客さんと関わりを持つこともあります。

他に水槽班やダイビングなどを、また野外での生き物採集など、年間を通して様々な活動を行っています。

いろいろな活動をととして生き物について理解し、そこで『水と水の生き物の素晴らしさ』を伝えています。



# Message Voice

Yuko Takayama

活躍する卒業生

●OGからのメッセージ

高山優子 (1996年理工学部バイオサイエンス学科〈当時〉卒業)

帝京大学理工学部バイオサイエンス学科講師

私は西東京科学大学・理工学部・バイオサイエンス学科(現:帝京科学大学 生命環境学部 生命科学科) 3期生で、現在幸運にも帝京大学理工学部・バイオサイエンス学科で講師として働いています。現役大学生の将来像の一助になることを期待し、人生の折り返し地点に来てしまった私のこれまでの歩みを振り返ってみたいと思います。

高校生のころから癌に関わる研究者になることが目標で、勉強ばかりしていました。しかし、大学での講義・実習は非常に楽しかったので、苦学ではありませんでした。卒業研究ではサケ科魚類を用いた研究テーマをいただき、実吉峯郎先生・山口十四文先生・平井俊朗先生に研究の基礎を叩きこまれました。「命をもらって研究をさせてもらうのだから、何一つ無駄にせずデータにしないさ。」との実吉先生のお言葉は、時々思い出しては反省しています。その後、修士課程では筑波大学医科学研究科に進み発がん機構の研究をしていました。博士課程ではさらに分子レベルでの解明を目指し、総合研究大学院大学・遺伝学専攻に進みました。学位取得後は約10年間ポスドク生活でした。一般的には10年も・と絶句されますが、私には幸せて充実した時間であり、研究の基盤形成の時期に当たります。この間に結婚・出産も経験し、さらに肝っ玉が据わった感があります。現在は、時々保育園がお休みの時は息子と共に大学に来て実験をしています。他の先生や学生も好意的で本当に助かっています。私はその時の「やりたい!」の思いを第一に進路を決め、一生懸命勉強と研究をしたからこそ、今があると感じています。

現在、国は一億総活躍社会を目指しており、大学を卒業した人材は国の発展に寄与できる卵です。その卵たちに知っておいてほしいことは、ピンチの時に頼りになるのは自分の経験と確固たる意志であるということです。そのためにも、興味があることにはトコトン挑戦してください。失敗しても大丈夫!体力がある若いうちはリカバーできますし、頑張った人は必ず助けてもらえます。たくさんの経験を積んで、「自分の意思」を持ち未来を切り開いてください。チャンスの女神は前髪しかないと言われていますが、前髪を待ってはいけません。自分から女神を探して、前髪をつかみに行きましょう!私も負けませんよ。

## キャリア支援センター | だ | よ | り |

一人ひとりの適性や将来を見据えた懇切丁寧な面談を繰り返し、学生にとってのベストを見つけます。

キャリア支援センターは、就職支援だけでなく、学生の適性や将来まで見据えたキャリア教育を行うことを目的としています。

今、社会では新入社員の約3割が3年以内に退職すると言われています。その原因となる企業とのミスマッチを防ぐためにも、キャリア教育は必要です。そのために正課の授業として1年次から導入しています。

また、各キャンパスに合計6名配置しているキャリアカウンセラーによって、3年次の春に全局面談を行います。早期から就職活動に向けて希望を聞き取り、適性とのおすり合わせをするため、面談は継続的に行います。

さらに、日常的に学生と関わる教員と連携しながら、就職活動に関する学生の動向を把握し、一人ひとりの学生にとってのベストを一緒に見つけていきます。



## 卒業式



平成28年3月21日(祝・月)、東京・九段の日本武道館において、平成27年度帝京大学グループ卒業式・修了式が挙行されました。

式は厳粛かつ盛大に行われ、学部生と大学院生1002名を代表して各学科・専攻の総代に卒業証書・学位記が手渡されました。式終了後には卒業生全員に卒業証書・学位記が手渡されました。

平成28年4月4日(月)、平成28年度帝京大学グループ入学式が日本武道館で挙行されました。

新入生をはじめ多くのご家族の皆様にご来場いただき、生命環境学部、医療科学部、こども学部の3学部合わせて1140名と大学院理工学研究科15名の新入生を迎えることができました。



## 入学式

### [ 退任・新任教員 ]

#### ■平成27年度(退任)

櫻井 富士朗	教授	アニマルサイエンス学科
多川 政弘	教授	アニマルサイエンス学科
平井 俊朗	教授	生命科学科
高木 喜樹	教授	自然環境学科
田村 昌大	助教	東京柔道整復学科
大野 伸一	教授	柔道整復学科
長谷川 ゆり子	教授	看護学科
村上 満子	准教授	看護学科
荒木 美千子	准教授	看護学科
久保 美紀	講師	看護学科
佐々木 一枝	助教	看護学科
藤田 藍津子	助教	看護学科
神戸 洋子	教授	こども学科
大沢 裕	教授	こども学科
加納 史章	助教	こども学科

#### ■平成28年度(採用)

岡西 真琴	講師	アニマルサイエンス学科
宮田 拓馬	助教	アニマルサイエンス学科
川村 和美	特任助教	アニマルサイエンス学科
小泉 亜希子	特任助教	アニマルサイエンス学科

柴田 安司	准教授	生命科学科
山際 清史	講師	自然環境学科
猪股 高志	教授	理学療法学科
渡邊 修司	特任助教	理学療法学科
澤田 有希	助教	作業療法学科
天野 達也	教授	柔道整復学科
渡邊 利明	教授	柔道整復学科
佐藤 光浩	講師	柔道整復学科
齊藤 百合花	講師	東京理学療法学科
小黒 正幸	助教	東京柔道整復学科
浅木 健治	特任助教	東京柔道整復学科
吉田 一子	准教授	看護学科
石渡 智恵美	講師	看護学科
伊藤 靖代	講師	看護学科
岡 潤子	助教	看護学科
松田 謙一	助教	看護学科
甲斐 恭子	助教	看護学科
柁崎 京子	教授	医療福祉学科
川口 典男	教授	医療福祉学科
坂野 憲司	教授	医療福祉学科
山田 健司	教授	医療福祉学科

加藤 洋子	准教授	医療福祉学科
楠永 敏恵	准教授	医療福祉学科
井岡 由美子	講師	医療福祉学科
和田 一郎	講師	医療福祉学科
浅沼 太郎	講師	医療福祉学科
三木 良子	講師	医療福祉学科
松永 美輝恵	助教	医療福祉学科
重松 義成	助教	医療福祉学科
宮本 佳子	助教	医療福祉学科
吉川 和幸	准教授	こども学科
大槻 千秋	准教授	こども学科
山田 知代	講師	こども学科
鈿持 勉	教授	幼児保育学科
新家 智子	特任助教	幼児保育学科
柴田 義晴	教授	学校教育学科
長見 真	教授	学校教育学科
江田 慧子	講師	学校教育学科
持田 尚	講師	学校教育学科
大山 智子	講師	学校教育学科
長嶺 宏作	特任講師	教職センター
松影 香子	准教授	総合教育センター

#### 「編集後記」

本年度よりニューズレター委員となりました。今年度は作業のスタートが遅れてしまい発行が遅くなり申し訳ありませんでした。今後も本学のニュースを皆様にお届けしていきたいと思っております。よろしくお祈りします。(ニューズレター部会 井上 聡)

